

5-2

主題

意識の変化から時間は作れる！！

ケアの質の向上

副題

～ゆとりのあるユニットへ～

ユニットケア

研究期間

6ヶ月

事業所

社会福祉法人聖風会 台東区立特別養護老人ホーム台東

発表者：古川 仁子

アドバイザー：川崎 千春

共同研究者：氏名 石澤 希味子 秋田 尚子

電 話

03-3834-4435

メール

taitou@seifuukai.or.jp

FAX

03-5807-5738

URL

<http://www.seifuukai.or.jp/>

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

（必須）社会福祉法人聖風会が母体である特別養護老人ホーム台東は、平成 13 年 6 月に開設しました。特別養護老人ホーム 50 床とショートステイ 10 床。その他高齢者在宅サービスセンター、地域包括支援センター、ケアマネジメントセンターも併設している高齢者総合福祉施設です。

《研究前の状況と課題》

（状況）

職員が時間に追われ、利用者とのコミュニケーションを図る時間が持てず、1日を過ごしていた。

また、職員が落ち着いていないために、利用者も落ち着くことが出来ず、大声を上げたり、それがもとに利用者同士が言い合いをしたりと、落ち着かない雰囲気が出来てしまった。



（課題）

- ・ 職員の時間の使い方の見直し。
- ・ 利用者が落ち着いて生活できるような環境作り。
- ・ 利用者の思いに耳を傾け、寄り添う時間を設ける。

《研究の目標と期待する成果》

（目標）職員の時間の使い方を見直し、利用者、職員共に落ち着いて過ごせるような環境を作りたい。

利用者に関わる時間を持ち、利用者の希望を叶えられるようにしたい。

（成果）職員の時間が無い、人がいないという理由で、利用者のニーズなど、今まで取り組みたくても、そんな時間を持てずにいた。「職員のどうにかしたい」という思いを少しずつ、一つずつ取り組んでいくことにより、今までのドタバタしていた一日から落ち着いて利用者の声に耳を傾け、ゆとりある1日を過ごせるように取り組んでいった。

《具体的な取り組みの内容》

- ・ 職員の人数が定着したことにより、意識の変化（取り組む姿勢の変化）
- ・ 日中の業務を夜勤で出来るものは、ユニット職員が夜勤の時に行うようにした。
- ・ ユニット会議で職員より行いたい事を出し合って週間予定に組み込んでいく。
- ・ 職員の休憩時間の確保



その結果、以下のことが
行えるようになった。

- ・ 1日の中で時間を作り、貼り絵などの工作の時間を設ける。
- ・ 外出・外食の機会を設ける。
- ・ 散歩や買い物に出掛ける。
- ・ 利用者のリハビリ時間の確保
- ・ 利用者との関わる時間を増やす。
- ・ 環境整備（食堂で過ごす席の配置を変える。）
- ・ メニューボードを購入し、その日のメニューや、一日の予定、入浴予定等記入し、利用者がいつ見てもその日の予定を分かるようにした。

《取り組みの結果と評価》

- ・ 職員同士の声掛けが増え、自分の意見が言える環境が出来、さらに業務の効率化が図れた。
- ・ 食堂の席を変更したことで、隣の利用者とお話したり、職員との会話も増えた。
- ・ 空いた時間に皆で貼り絵を行い、連帯感が生まれた。また、貼り絵などを行なうことで、その時間に集中するようになった。
- ・ 職員、利用者と過ごす時間が増え、さらに利用者との間に信頼関係を築くことが出来た。
- ・ 外出等増やすことで利用者の笑顔が増えた。
- ・ リハビリをやりたいという利用者の意欲を損なうことなく、希望に沿うことが出来た。

《まとめ》

まだまだ、ユニット作りの途中段階ではありますが、職員のモチベーションをUPすることで利用者への思いを強め、今後も、職員全員で協力しながら、利用者、職員共に我が家のように落ち着ける暖かなユニット作りを目指していきたい。

《提案と発信》

【メモ欄】追加資料 有 ☒ 無 ☐